

文法活用の日常英語表現

Daily English and its Grammar

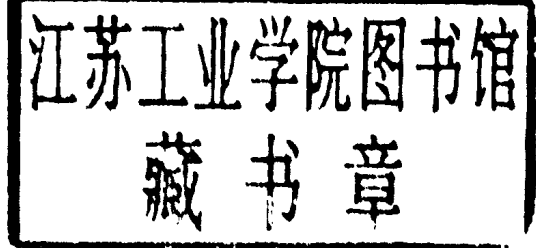
八 木 克 正 著

英 宝 社

文法活用の日常英語表現

Daily English and its Grammar

八 木 克 正 著



THE SIGN OF



A GOOD BOOK

英 宝 社

文法活用の日常英語表現

1990年11月20日 初 版

著 者 © 八 木 克 正

発 行 者 佐 々 木 峻

発 行 所 株式 英 宝 社
会 社

東京都千代田区三崎町1-1-8 (☎101-91)
電 話 [03] (292) 0167~9 振替東京6-257

〔海川企画〕

定価 1,850 円(本体 1,796 円)

は し が き

本書は、専攻を問わず大学生に必要な英文法の知識を総まとめしながら、その知識を英語を読んだり書いたりするのに役立たせる目的で作られました。このように実践的目的をもった本書には、次のような特徴があります。

(1) 現代の英語を読み書きする上で必要十分な文法知識を、簡潔に解りやすく整理しました。英文法に現れる用語でも、その意味が十分理解されないまま過ごしてきたものが少なくないと思います。本書では、そのような各種の用語の意味を簡潔に説明しています。

(2) 英語の題材を、読解に必要なものと、英語で表現するのに必要なものとに分けるために、文語・古語と、無標のもの（どのスピーチレベルでも使われるもの）、口語的なものの区別をできるだけ明確にしました。また、英語で表現するのに役立つ題材は、主としてアメリカ英語の、できるだけ日常的に頻繁に現れる表現を選びました。

(3) 英米の違いを明確にするとともに、わが国での通説にとらわれず正しい語法を提示するよう最大限の努力をしました。

アメリカ人は天候の話をする場合に *It is fine today.* ということはまずありません。Did you remember to *post* the letter? の例にある *post* もアメリカ人が使うことはまずないようです。また、よく辞書にある *He failed in the examination.* というような *fail* の自動詞表現は、英米を問わず実際にはまず使われることはありません。

これはほんの一例ですが、本書の記述には、今まで学習してきた英語の知識と照らし合わせると、違いに気付かれる点も数多く出てくるでしょう。実は、現状の辞書や文法書では英語の本当の姿はまだとらえきれていないのです。英語の研究は日進月歩です。このような現実の中で、本書ではできるだ

け英語の実体研究の最先端の成果を採り入れようとしてしました。

(4) EXERCISE は、主に「英作文」の演習です。口語的な英語を作る Oral translation の部分と、やや堅い表現も含んだ英訳の演習の部分とに分かれています。日常表現を英語に直す練習から英文法の知識を身につけ、さらにその知識を応用して英語表現の実力をつけていただきたいという願いから、英作文の問題もかなりの分量になっています。

本書の執筆にあたって、内外の多くの辞書、文法書を参考にしました。用例についても、特殊なものを除いていちいち出典をあげてはいませんが、テレビの英語番組、英字新聞、アメリカの雑誌、英米の最近のベストセラー小説、英語会話のテキスト類のほか、英米の辞書、文法書に負うものが少なくないことを記して謝辞とします。

本書の完成までに、多くの友人にみていただいて、記述の改良を重ねてきました。特に、英語学の諸分野で活躍中の、井上永幸、奥田隆一、土家裕樹、内木場努の各氏は本書の内容を細かく検討して、おしめない援助をして下さいました。井上永幸氏には、校正段階でも大変お世話になりました。また、平井一枝さんにも、校正で貴重なアドバイスをいただきました。

同僚の Geoffrey Blake 氏に、本書のすべての用例を時間をかけて幾度も校閲していただき、用例をより生き生きとしたものに改良しました。それでもなお本書の中には思わぬ誤りなどがあるかと思います。それは言うまでもなくすべて著者の責任です。ご教示いただければ幸いです。

本書の出版にあたって、恩師小西友七先生に英宝社への橋渡しをしていただきました。また、英宝社編集部の宇治正夫さんには、レイアウト、校正の面で大変お世話になりました。このような皆さんの温かいご協力によって本書ができあがりました。ご援助をいただいた方々に心から感謝いたします。

平成2年9月

著者記す

目 次

はしがき	iii
 PART I 文と文型	 3
1. 文型と文を構成する要素	3
(1) 5文型	3
(2) 基本要素とその他の要素	3
(3) 文を構成する要素と品詞	4
主部・述部 / 文構成要素 / 品詞	
(4) 文を構成する基本要素	4
主語 / 述語動詞 / 目的語 / 補語 / 目的語と補語	
〈EXERCISE〉	7
2. 修飾要素, 独立要素と文の分類	10
(1) 修飾要素	10
形容詞的修飾語 / 副詞的修飾語	
(2) 独立要素	11
(3) 節と句	12
節とは / 節の種類 / 句とは	
(4) 文の種類	13
形態からみた文の種類 (単文, 複文, 重文, 重複文) / 意味	

vi 目 次

からみた文の種類（平叙文，疑問文，感嘆文，肯定形・
否定形）

〈EXERCISE〉	16
------------------	----

PART II 述語動詞構成要素と準動詞	18
----------------------------	----

1. 動詞と動詞型	18
-----------------	----

(1) 5 文型と動詞	18
-------------------	----

文型と動詞 / 自動詞 / 他動詞 / 自動詞と他動詞

(2) 5 文型と動詞型	20
--------------------	----

動詞型 / tell の動詞型 / 英和辞典の動詞型表示

(3) 文型の動詞型による細分化（用例）	21
----------------------------	----

第 I 文型 / 第 II 文型 / 第 III 文型 / 第 IV 文型 / 第 V 文型

(4) 静的と動的	23
-----------------	----

(5) 句動詞と複合動詞	24
--------------------	----

句動詞 / 複合動詞

〈EXERCISE〉	28
------------------	----

2. 時制と相	31
---------------	----

(1) 時制とは	31
----------------	----

(2) 相とは	31
---------------	----

(3) 時制と相の組み合わせ	31
----------------------	----

(4) 単純現在形	32
-----------------	----

(5) 単純過去形	33
-----------------	----

(6) 単純未来形	33
-----------------	----

(7) 完了形	34
---------------	----

現在完了形 / 過去完了形 / 未来完了形

(8) 進行形	35
---------------	----

現在進行形 / 過去進行形 / 未来進行形

〈EXERCISE〉	37
------------------	----

3. 助動詞	40
--------------	----

(1) 助動詞の種類	40
------------------	----

(2) 否定形・疑問形	40
-------------------	----

(3) 助動詞の意味と用法	40
---------------------	----

do / will / shall / be going to / would / should / can, could

/ may, might / must / have to, have got to, had to / ought

to / need / dare / had better / used to

(4) 助動詞が完了形を従える場合の意味	47
----------------------------	----

完了形をとらないもの / 話し手の判断 / 仮定法的用法

〈EXERCISE〉	50
------------------	----

4. 態	53
------------	----

(1) 態とは	53
---------------	----

(2) 能動文と受動文の関係	53
----------------------	----

(3) 目的語と態	54
-----------------	----

第 III 文型 / 第 IV 文型 / 第 V 文型

(4) 受動態の方が普通に使われる場合	55
---------------------------	----

(5) 受動文と前置詞	56
-------------------	----

(6) 動的受動態と静的受動態	56
-----------------------	----

(7) 能動受動文	57
-----------------	----

〈EXERCISE〉	58
------------------	----

5. 法	61
(1) 法とは	61
(2) 命令法	62
命令法の形と意味 / 命令的な意味 / 命令文の主語 / 命令文 +and, or	
(3) 仮定法	63
仮定法現在 / 仮定法過去・仮定法過去完了と条件 / 仮定法 過去 / 仮定法過去完了	
<EXERCISE>	68
6. 話法と時制の一致	71
(1) 話法とは	71
(2) 伝達動詞と伝達部, 被伝達部	72
(3) 話法の転換と時制の一致	72
(4) 直接話法と間接話法	73
命令文 / 平叙文 / 疑問文 / 感嘆文	
<EXERCISE>	76
7. 準動詞 (1)―動名詞	79
(1) 準動詞の定義と種類	79
(2) 動名詞とは	79
(3) 動名詞の用法	79
主語 / 他動詞の目的語 / 形容詞の目的語 / 前置詞の目的語 / be 動詞の補語 / 名詞の同格	
(4) 動名詞の意味上の主語	81
(5) 完了形の動名詞と動名詞の表す「時」	82
(6) 受動態の動名詞	83
<EXERCISE>	84

8. 準動詞 (2)—不定詞	86
(1) 不定詞とは	86
(2) 原形不定詞の用法	86
助動詞の後にくる本動詞 / help の後にくる名詞的用法 / 《口語》で be 動詞の後 / go, come and の後で / 使役動詞・知覚動詞の目的格補語として	
(3) to 不定詞の用法	87
to 不定詞の意味上の主語 / 名詞的用法 (主語として, be 動詞の補語として, 動詞の目的語として) / 形容詞的用法 / 副詞的用法 / 完了形不定詞の用法	
<EXERCISE>	93
9. 準動詞 (3)—分詞	95
(1) 分詞とは	95
(2) 現在分詞の用法	95
進行形 / 名詞の修飾 / 知覚動詞の目的格補語 / 使役動詞の目的格補語 / busy, have difficulty の後で / 分詞構文を作る / with + 名詞の後で	
(3) 過去分詞の用法	97
have 動詞とともに, 完了形を作る / be 動詞とともに, 受動態を作る / 名詞の修飾 / 使役動詞の目的格補語 / 知覚動詞の目的格補語 / 分詞構文 / 特定の動詞の目的格補語	
<EXERCISE>	100

PART III 品詞を中心として..... 102

1. 名詞・代名詞と冠詞 102

(1) 名詞の種類 102

機能からの分類 / 意味からの分類

(2) 名詞型 104

同格または補語に that 節をとる場合 / it . . . that の型をとる場合 / it . . . to の型をとる場合 / 同格の to 不定詞をとる場合 / 同格の wh-節をとる場合 / 補語に to 不定詞をとる場合 / 成句 (have . . . of/for/in doing // have . . . that 節//give . . . //make . . . //do . . .)/of // for+動名詞句をとる場合

(3) 名詞の数 107

相互複数 / 絶対複数 / 不定複数 / 総称複数

(4) 名詞の数と動詞・代名詞との呼応 109

(5) 代名詞の格 111

(6) 冠詞の種類と用法 111

不定冠詞 / 定冠詞 / 無冠詞

〈EXERCISE〉 116

2. 形容詞(句・節)と形容詞型 118

(1) 形容詞, 形容詞句, 形容詞節 118

(2) 叙述用法と限定用法 118

(3) 形容詞の種類 119

叙述用法と限定用法 / 程度形容詞と非程度形容詞 / 動的と静的

(4) 形容詞型	120
名詞の前置修飾 / 名詞の後位修飾 / 人称主語 + be + 形容詞 + that ... / It + be + 形容詞 + that ... / It + be + 形容詞 + to 不定詞 / It + be + 形容詞 + 動名詞 / 人称主語 + be + 形容詞 + to 不定詞 / 人称主語 + be, feel など + 形容詞 + 前 置詞	
(5) 限定詞——特に some, any	124
数量の some, any / 不特定の some, any	
(6) 形容詞句	126
〈EXERCISE〉	127
3. 関係詞	129
(1) 関係詞とは	129
(2) 関係詞節の限定用法と叙述用法	129
(3) 関係代名詞	129
種類 / who, whose, whom / that, which	
(4) 関係副詞	132
種類 / 叙述用法	
(5) 関係形容詞	133
(6) 接触節と関係詞節	134
(7) 強意構文と関係詞節	135
〈EXERCISE〉	136
4. 副詞と副詞的修飾語句	138
(1) 副詞・副詞的修飾語句とは	138
(2) 副詞	138
文・節を修飾する副詞 (様態, 頻度, 主張・判断, 接続副 詞, 否定辞, 時) / 語句を修飾する副詞 (様態, 時, 場所, 焦点化, 名詞句の修飾, 形容詞・副詞の強意) / 句動詞の 一部になる副詞辞	

(3) 副詞句	141
前置詞＋名詞(句)(時・期間, 場所・方向, 原因・理由, 方法・手段, 様態) / 不定冠詞＋名詞(程度・分量, 時間) / (the＋) 形容詞, 形容詞的語句＋名詞など(時間, 距離) / 数量詞＋名詞＋after, before, ago など / 不定詞 / 分詞	
(4) 副詞節	145
理由 / 時・期間 / 条件 / 譲歩 / 付帯 / 結果	
〈EXERCISE〉	147
5. 比較	149
(1) 比較の種類	149
(2) 同等比較	149
(3) 優勢比較	150
相対比較(比較級による比較, 最上級による比較) / 独立 比較(比較級による表現, 最上級による表現)	
(4) 同等比較・優勢比較の意味的な関係	152
(5) 劣等比較	152
(6) 特殊な比較	153
〈EXERCISE〉	154
APPENDIX 句読点の名称と用法	157
用語・語句索引	159

凡 例

文の前につけた*は, その文が英語として正しくないことを, また, ?はその文があまり普通に使われる文ではないことを示す。本書は主としてアメリカ英語を題材にとっているが, 必要に応じて《英》《米》《口語》《文語》《俗語》《古》などのレーベルで, それぞれイギリス英語, アメリカ英語, 口語, 文語, 俗語, 古語として使われることを示した。

文法活用の日常英語表現

PART I

文 と 文 型

1. 文型と文を構成する要素

(1) 5 文型 (five sentence patterns)

英語の文 (sentence) は 5 つの文型に分けることができる。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------------------|
| 1) 第 I 文型 | S+P | We walked. |
| 2) 第 II 文型 | S+P+SC | John is difficult. |
| 3) 第 III 文型 | S+P+O | We like French. |
| 4) 第 IV 文型 | S+P+IO+DO | Mary made him coffee. |
| 5) 第 V 文型 | S+P+O+OC | We call her Maria. |

S=Subject (主語), **P**=Predicate Verb (述語動詞), **SC**=Subjective Complement (主格補語), **O**=Object (目的語), **IO**=Indirect Object (間接目的語), **DO**=Direct Object (直接目的語), **OC**=Objective Complement (目的格補語)。第 III 文型の **O** は、直接目的語 (**DO**) の場合もあるし、間接目的語 (**IO**) の場合もある。

学者によって、3 文型、6 文型、7 文型などを提唱する場合がある。ここに採用している 5 文型は、絶対的なものではなく、1 つの考え方にすぎない。

(2) 基本要素とその他の要素

上にあげた例は基本要素だけからなる。文はこのような基本要素だけからなる場合は少なく、基本要素を修飾する要素 (修飾要素)、さらにこれらの要

4 I 文と文型

素とは文法的な関係がない独立した要素（独立要素）を含んでいる場合が多い。このような修飾要素、独立要素を加えても文型は変わらない。このように、文型を決定するのは、述語動詞の機能による。述語動詞と文型との関係については PART II 1 (3) 参照。

— 例 文 —

- (a) We walked *ten miles without stopping at all*.
- (b) John is difficult *to please*.
- (c) We like French *better than English*.
- (d) Mary made him *a good cup of* coffee.
- (e) We *usually* call her Maria, *you know*.

(3) 文を構成する要素と品詞 (parts of speech)

- 1) 主部・述部 文の主語を含む名詞句を「主部」、述語動詞と補語・目的語の部分「述部」とよぶ。
- 2) 文構成要素 主語、述語動詞、目的語、補語、修飾語、独立要素というのは文を構成する要素としてみた場合の名称である。
- 3) 品詞 ある一定の機能を果たす語のグループとしてみた、名詞 (**noun**)、代名詞 (**pronoun**)、動詞 (**verb**)、形容詞 (**adjective**)、副詞 (**adverb**)、前置詞 (**preposition**)、接続詞 (**conjunction**)、間投詞 (**interjection**) などは品詞名である。

(4) 文を構成する基本要素

- 1) 主語 主語になるのは、名詞 (句) およびそれに相当する語句・節である。(以下の例文はすべて第 II 文型)